

第5章 ビジョンの始まり

エリアプラットフォームが主体となって、取組みの構想・計画・実験・運用・マネジメントを検討していく先導的な取組みとして、駅前お城通りの整備と利活用を推進していきます。

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」であるウォークブルの考え方に基づき、共創のショーケースづくりを進めためには、多様な人が多様な利活用ができる多様な公共空間を求めるものとなります。

この多様化に向けた公共空間の利活用において、単に利用に応じてスペースを限定的に区切るのではなく、多様な利用や利用者を共存可能な空間のあり方を検討していきます。

多様性を受け入れることこそ、ひこね共創のデザインの具体化そのものと言えます。



駅前お城通りの概況と検討方針

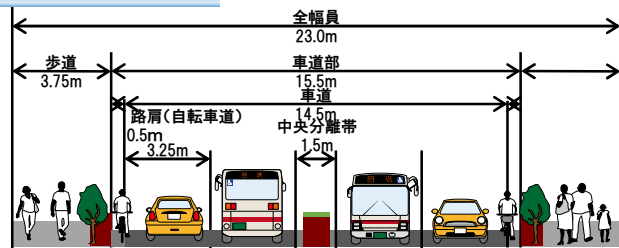
ショーケースとして魅せる駅前お城通りの絵姿とは

駅前お城通りは、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」であるウォーカブルの考え方や、公共空間の利活用していく共創のショーケースを担うことを踏まえると、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションを創出するための、誰もが利用しなくなる道路空間のあり方を実践していくことが求められます。

一方で、様々な利活用に対応するための公共空間は、求められる機能や利用者を受け入れる多様性を有する必要があります。そのためには、多様な機能や利用をシェアできる可変的でオープンな空間が求められるものと考えます。

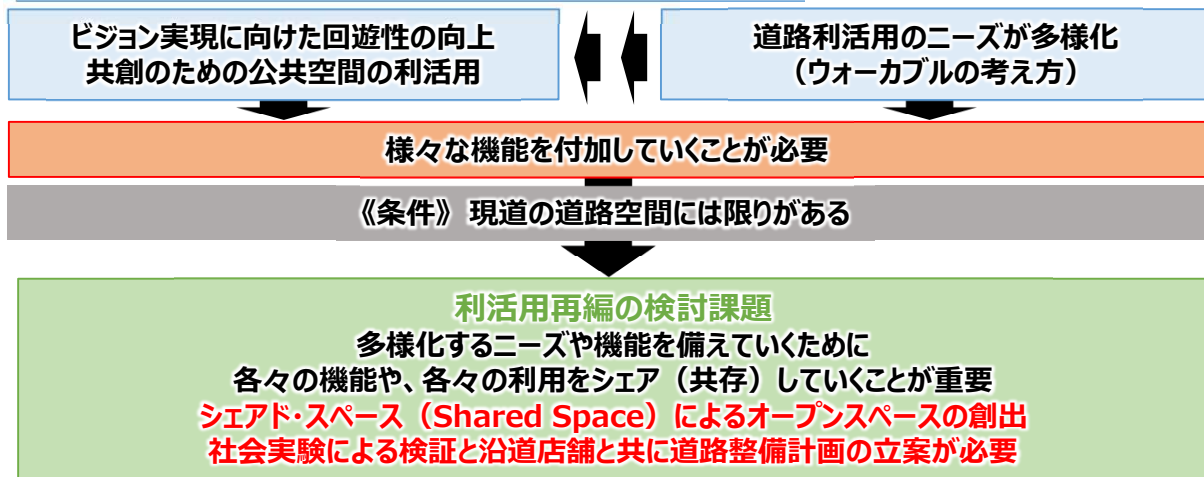
オープンな空間を形成するためには、自動車の利用の仕方を再考していくことも重要となります。原松原線や国道8号の整備などのハード整備の推進を支援するとともに、P&BRやお城周辺の駐車場の再配置、公共交通利用推進などのソフト対策も並行して進めることが必要です。駅前お城通りの整備や利活用にあたっては、沿道の方々と共に基本的な整備の方向性を議論しつつ、自動車の利用方法やその利用路線なども併せて検討していくことが重要と考えます。

駅前お城通りの概況と検討方針



概況		構成要素
道路区分		第4種1級(都市部)
都市計画道路の種類		幹線街路(整備済み)
車道部	車道	4車線(片側2車線) 13.0m=3.25m×4
	路肩	側方余裕、自転車レーン、荷捌きスペース 1.0m=0.5m×2
	中央分離帯	車線の往復分離、植樹 1.5m
歩道部等	歩道	自転車歩行者優先道として設定 7.5m=3.75m×2
	自転車	車道混在道路、歩道通行可

駅前お城通りの利活用再編の検討課題





オープンスペースの創出の考え方

可変的でシェアド・スペースをマネジメントするオープンスペースの創出

多様な活用や取組みを支えるオープンな空間の創出には、可変的に空間を共有できるシェアド・スペースをマネジメントしていくことにより創出できるものと考えます。

彦根市のオープンスペースは、単に利用に応じてスペースを限定的に区切るのではなく、多様な利用や利用者を共存可能な空間のあり方を検討していきます。

再編の目標

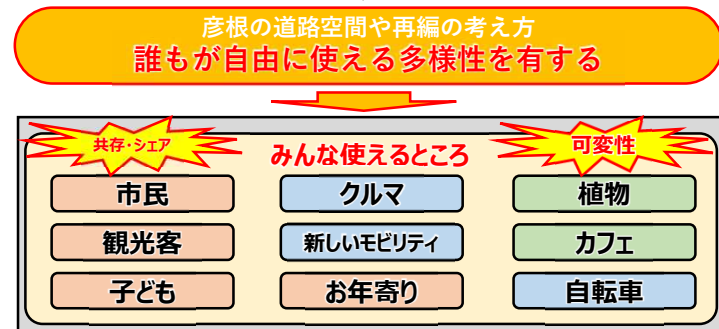
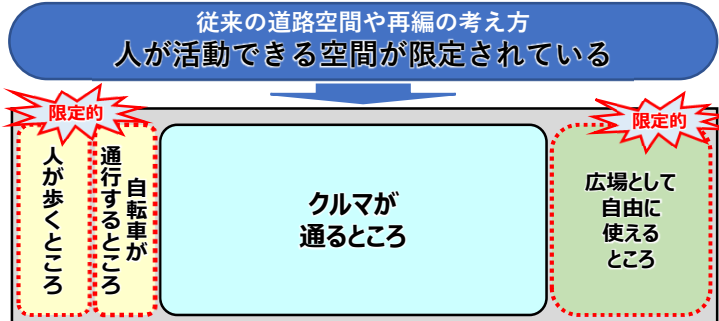
多様な人が多様な活用ができる公共空間の創出

公共空間の利活用の創出にあたっては、誰もが歩きたくなる、誰もが利活用したくなる、多様な人が多様な活用ができる公共空間の創出が重要。

方法 道路空間の考え方

多様性を実践するための可変とシェアできる空間づくり

多様な活用を実践可能とするためには、各利活用ごとに必要な機能を備えていく専用スペースが確保されている空間ではなく、可変性を備える仕切りのない、シェアしやすいオープンスペースの創出を目指していくことが重要。



オープンスペースの空間の恩恵①

次世代モビリティの走行空間の確保が柔軟に対応しやすい
進捗が目覚ましい次世代モビリティへの対応がしやすい

電動車椅子 (WELL) 低速マイクロモビリティ



物流ロボティクス

型式指定車



出典：国土交通省等

オープンスペースの空間の恩恵②

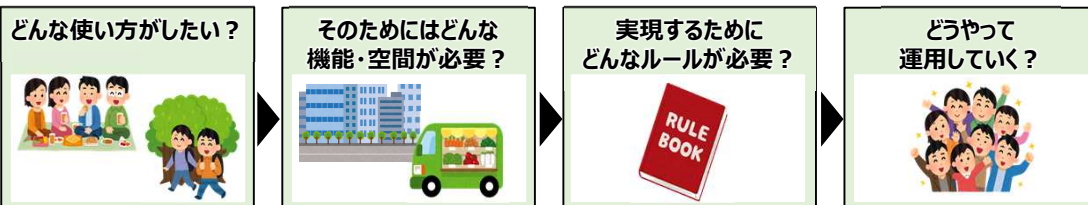
お城の眺望景観をより活かす
開放感溢れる空間づくりに寄与
常設物が自然と不必要となることから、開放感溢れる空間が彦根城の眺望景観の創出につながる

必要な検討・マネジメント

可変とシェアを実践していくマネジメントの仕組みや体制づくり、社会実験

日常的に利用する市民にとっての理想の道路空間像のイメージや、使い方を考えること、さらには曜日や時間帯に応じて道路空間の使い方を変えられる等、柔軟な仕組み・ルールが必要。

どのようにしてシェアド・スペースを創出していくべきか、利活用に関するマネジメント組織を立ち上げていか、試行と検証を繰り返しながら、誰もが納得いく実装段階に移行していくための実験が必要。





オープンスペースの創出に向けた社会実験

共創のショーケースとなるオープンスペースの創出の可能性の社会実験

駅前お城通りのオープンスペースの創出と利活用にあたっては、社会実験の実施によって、あり方や使い方、そのマネジメントの仕組み、車両通行の影響について検討を開始していきます。

社会実験は、エリアプラットフォームのスタートとして、共創のショーケースの魅力の発信を始めとして、次につなげる体制づくりに留意しながら、企画を検討していきます。

社会実験企画（案） ※詳細は今後検討

【社会実験の実施目的の設定】

「賑わい」、「育み」、「巡り」の体感、おもしろい発見を経験する

成功体験が望ましいが、やってみて課題もあったが、**おもしろい発見があった、またやってみたい！**という経験や体験を積む。

マネジメントサイクルを生み出す体制づくり

地元地域、市内、市外との人脈を形成しながら、エリアプラットフォームの実行部隊、人材育成につなげる。地元の中と外にリーダー、キーパーソンを発見し、**お互い無理のない寄り添い、分かち合う関係を築く。**

ちゃんと確かめて、次につなげる

利用者側のニーズや改善点、そして出店者側や協力者に関して、**今後の意向を引き出す。**交通課題や利用課題を把握し、**公共空間としての規律や必要なルール**を検討する。

【社会実験における検証・把握事項】

- ・取組み内容が、回遊のきっかけとなるか、ウォークアブルなみちとしての魅力づくりとなっているかを検証
- ・創出した道路空間がオープンスペースとして機能しているかを検証
- ・実施体制や資金面について、持続的な取組みとなりえるか、その課題やニーズを把握
- ・地元の生活交通、観光客を呼び込む動線としての影響や対策にも配慮されているかを把握
- ・彦根の回遊の楽しさ、魅力、参加することの楽しさを伝えていく

【社会実験主体】

都市再生協議会（エリアプラットフォーム主催 彦根市事務局）

【活用プログラム（専門部会案）】

平日 日常的 利用 想定		休日 イベント的（非日常的） 利用 想定	
1日目（木）	2日目（金）	3日目（土）	4日目（日）
・お弁当ランチ広場 ・大学授業（授業・講座） ・カフェ、飲食	・お弁当広場ランチ ・大学授業（フィールドワーク） ・保育園遠足	・市（いち） ・カフェ、飲食	・市（いち） ・カフェ、飲食

【社会実験対象区間】

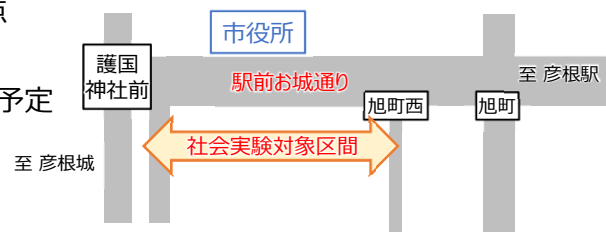
駅前お城通り 旭町西～護国神社前 交差点

【道路占用、規制】

車両進入に関して、一定の制限を行うことを予定

【効果検証】

利用者アンケート調査
交差点交通量調査と歩行者交通量 等





オープンスペースの創出のイメージ

共創のショーケースとなるオープンスペースの創出のイメージスケッチ

彦根城と彦根駅を結ぶ駅前お城通りは、誰もが自由に活動できる公共空間であり、
 どんな活動も包み込む柔軟性に富む集いの空間、
 そして人を集める魅力を秘めた共創のショーケース。
 彦根は、古き歴史を重んじながらも、新しい時間や空間、
 そしてそこでの挑戦や活動を大事にするまちの象徴である道路。
 このビジョンが導く共創の象徴。

《日常的な利活用イメージ》

授業や仕事、保育園のお散歩、高齢者の健康体操、その他自由に勉強や食事といった日常活動が行われ、人々の日常が道路空間のなかにもあるような、“普通の毎日”が感じられるイメージ



《イベント時の利活用イメージ》

道路空間の中で、マルシェや簡易ステージの設置、バーベキュー等のイベント開催や野外アクティビティといった、賑わいを創出する活動が行われている、“休日の特別感”が感じられるイメージ

